外苑事務所

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1
日本青年館・日本スポーツ振興センタービル
〈交通〉
東京メトロ銀座線 外苑前駅下車（2b出口）徒歩5分
都営大江戸線 国立競技場駅下車（A2出口）徒歩10分
JR総武線各駅停車 千駄ヶ谷駅／信濃町駅下車 徒歩12分

秩父宮ラグビー場

〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35
〈交通〉
東京メトロ銀座線 外苑前駅下車（2b出口）徒歩5分

秩父宮記念ギャラリー

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1国立競技場
〈交通〉
JR総武線各駅停車 千駄ヶ谷駅／信濃町駅下車 徒歩11分
都営大江戸線 国立競技場駅下車（A2出口）徒歩7分
東京メトロ銀座線 外苑前駅下車（2b出口）徒歩11分

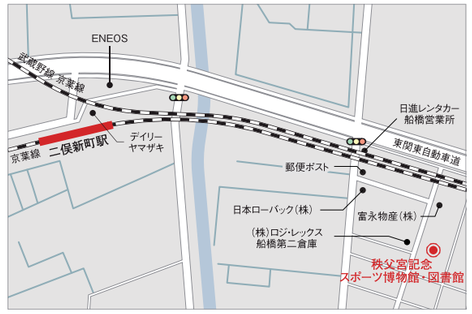
国立競技場

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1
〈交通〉
JR総武線各駅停車 千駄ヶ谷駅／信濃町駅下車 徒歩5分
都営大江戸線 国立競技場駅下車（A2出口）徒歩1分
東京メトロ銀座線 外苑前駅下車（2b出口）徒歩9分



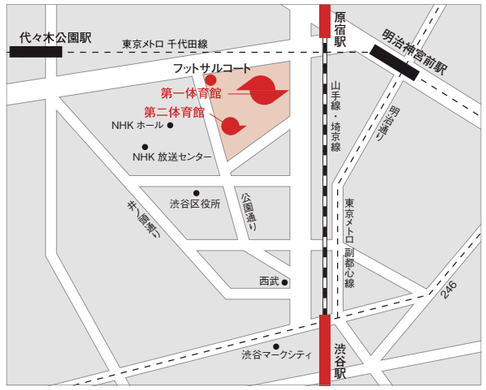
秩父宮記念スポーツ博物館・図書館（船橋倉庫）

〒273-0017 千葉県船橋市西浦2丁目5-3
㈱ロジ・レックス船橋第一倉庫5階
〈交通〉
JR京葉線 二俣新町駅下車 徒歩13分



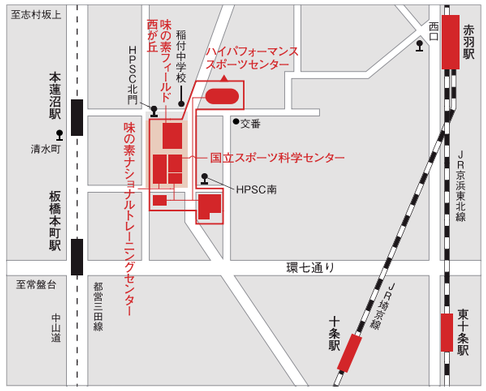
国立代々木競技場

〒150-0041 東京都渋谷区神南2-1-1
〈交通〉
JR山手線 原宿駅下車（西口）徒歩5分
東京メトロ千代田線・副都心線 明治神宮前駅下車（1出口）徒歩5分



ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）
国立スポーツ科学センター（JISS）
味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）
味の素フィールド西が丘

〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1 他
〈交通〉
都営三田線 本蓮沼駅下車（A1出口）徒歩10分／
板橋本町駅下車（A1出口）徒歩13分
JR埼京線・京浜東北線・宇都宮線・高崎線・
上野東京ライン・湘南新宿ライン 赤羽駅（西口）からバス
バス 「赤羽車庫」行き「HPSC南」下車
「池袋駅東口」「日大病院」行き「HPSC北門」下車



独立行政法人日本スポーツ振興センター
JAPAN SPORT COUNCIL
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1
日本青年館・日本スポーツ振興センタービル
https://www.jpnsport.go.jp

Webサイトはこちらの二次元バーコードから ▶

英語版パンフレットはこちらの二次元バーコードから ▶
English-language pamphlet at this QR code

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

（2026年発行）

JAPAN SPORT
COUNCIL
日本スポーツ振興センター



日本スポーツ振興センター

2026-2027



JAPAN SPORT
COUNCIL
日本スポーツ振興センター



日本スポーツ振興センター（JSC）の基本理念

基本理念（JSCのミッション）

JSCは、スポーツの推進と人々の健全な発達、健康で豊かな生活を実現し、公正で活力ある地域・社会、平和と友好に満ちた世界に貢献します。

目次

- 基本理念／目的・業務／組織概要 ―― 1
- 理事長あいさつ／沿革 ―― 2
- 業務紹介
  - スポーツ施設 ―― 3
  - 国立登山研修所 ―― 4
  - 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館 ―― 4
  - 新秩父宮ラグビー場・神宮外苑地区まちづくり – 5-6
  - 国立競技場 ―― 7-8
  - ハイパフォーマンススポーツセンター ―― 9-11
  - 関係機関との連携・協働 ―― 12
  - スポーツ振興事業部 ―― 13
  - 災害共済給付事業部 ―― 14
  - スポーツ・インテグリティ・ユニット ―― 15
- 財務 ―― 16
- 機構図・連絡先一覧 ―― 17
- SNS／寄附について ―― 18

目的・業務

JSCは、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）及び独立行政法人日本スポーツ振興センター法（平成14年法律第162号）に基づき設立され、その目的は、「スポーツの振興及び児童生徒等の健康の保持増進を図るため、その設置するスポーツ施設の適切かつ効率的な運営、スポーツの振興のために必要な援助、学校の管理下における児童生徒等の災害に関する必要な給付その他スポーツ及び児童生徒等の健康の保持増進に関する調査研究並びに資料の収集及び提供等を行い、もって国民の心身の健全な発達に寄与すること」とされています。

組織概要

組　織　名　独立行政法人日本スポーツ振興センター
住　　所　〒160-0013　東京都新宿区霞ヶ丘町4-1
職　員　数　890名（男性:461名、女性:429名）
【内訳】　常勤職員　442名（男性：278名、女性：164名）
無期雇用職員　9名（男性：　6名、女性：　3名）
非常勤職員　439名（男性：177名、女性：262名）

役　　員　理事長　芦立 訓　理事　永井 勉　監事　児玉 進矢
理事　大西 啓介　監事（非常勤）　大橋 玲子
理事　久木留 毅
理事　矢野 功　※2026年4月1日現在

ごあいさつ

JSCは、スポーツの振興及び児童生徒等の健康の保持増進を図り、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的に設立された独立行政法人です。

スポーツは、人々に健康や活力をもたらすとともに、地域のつながりを育み、共生社会の実現に貢献するなど、社会に多様な価値を生み出します。少子高齢化や地域社会の変化が進む中においても、誰もが身近にスポーツを楽しみ、その価値を実感できる社会の実現に向けて、私たちは関係団体や地域、産業界等と共に取り組んでまいります。

また、国内統括団体、国内競技団体、JAPAN SPORT NETWORK（JSN）加入の地方公共団体、大学・研究機関、産業界等との連携・協働を一層強化し、スポーツの価値を共に創出してまいります。あわせて、法人全体でDXを推進し、各種データや業務のデジタル化、AIの活用等の最先端テクノロジーにも積極的に取り組むことで、アスリートや国民の皆様へのサービス向上と、職員の働きやすい環境の実現の両立を図ってまいります。

具体的には、以下の取組を推進してまいります。

○ 国立競技場は、2025年4月から民間事業者による運営が開始しており、国民の皆様等に親しまれるスタジアムの実現に向け、引き続き民間事業者と協力して取り組んでまいります。また、新秩父宮ラグビー場（仮称）のPFI事業（民間事業化）についても、建設工事が2026年2月に着工しました。これらの施設の管理・運営にあたっては、観客やアスリートに対する質の高いサービスの提供、スポーツGDPの増大等への寄与、さらには国民負担軽減などの観点から、国の方針等を踏まえながら、着実に推進してまいります。

○ 国立代々木競技場、味の素ナショナルトレーニングセンター、味の素フィールド西が丘等の所管するスポーツ施設について、安全で安心して利用できる環境の確保と適切な管理運営に努めるとともに、国立登山研修所の機能強化に取り組み、スポーツの振興に寄与してまいります。

○ 我が国の国際競技力向上の中核拠点であるハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)の機能をさらに向上させるため、JOC、JPC、中央競技団体(NF)、地域のスポーツ医・科学センター及び大学・産業界等との連携を一層強化してまいります。オリンピック・パラリンピック競技の一体的な強化のもと、オールジャパン体制でトップアスリートの競技力向上を支えてまいります。また、国際競技力の向上に資する国際情報分析機能の充実にも取り組んでまいります。

○ そのほか、オリンピック・パラリンピック競技大会やアジア競技大会・アジアパラ競技大会に出場する日本代表選手に対しては、最先端のスポーツ医・科学、情報サービス等を提供するとともに、大会開催地における拠点の設置等を通じて、選手の活躍を支えるための支援活動に取り組んでまいります。

○ スポーツの振興の重要な財源を生み出すスポーツくじ（BIG、MEGA BIG、toto、WINNER等）については、その適正な運営と販売促進に努めます。また、トップスポーツや地域スポーツ振興のためのより効果的な助成金の配分に努めます。

○ アスリートが安心して競技に打ち込める環境を確保し、クリーンでフェアなスポーツを推進するため、関係機関と連携・協働しながら、スポーツ団体のガバナンス強化・コンプライアンスの徹底、ハラスメント等の相談対応、ドーピング防止活動の推進等、スポーツ・インテグリティの確保に向けて支援してまいります。

○ 学校の管理下における児童生徒等の災害（負傷、疾病、障害又は死亡）に対する災害共済給付（医療費、障害見舞金又は死亡見舞金の支給）については、2027年1月の災害共済給付システム刷新により、より迅速かつ確実な給付の実現を図ります。また、給付データから得られる知見を活用し、こどもの事故防止に関する情報提供の充実等、こどもたちが安全・安心に学校生活を送ることができる環境づくりに貢献してまいります。

これらの取組を通じて、スポーツがもたらす多様な価値を広く社会に還元し、国民一人ひとりの豊かな生活と活力ある社会の実現に貢献してまいります。

今後とも、皆様の一層のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



日本スポーツ振興センター
JAPAN SPORT COUNCIL

理事長　芦立 訓

主な沿革

- 日本学校給食会設立（1955年10月1日）
- 日本学校安全会設立（1960年3月1日）
- 国立競技場設立（1958年4月1日）
- 日本学校健康会設立（1982年7月26日）
- 日本体育・学校健康センター設立（1986年3月1日）
  - スポーツ振興基金部を設置（1990年12月27日）
  - スポーツ振興投票部を設置（1999年4月1日）
  - ※上記2つは2004年4月に統合し、スポーツ振興事業部となっています。
  - 国立スポーツ科学センターを設置（2001年4月1日）
- 独立行政法人 日本スポーツ振興センター設立（2003年10月1日）
  - ナショナルトレーニングセンターを設置（2008年4月1日）
  - 国立登山研修所を文部科学省より移管（2009年4月1日）
  - 情報・国際部を設置（2012年4月1日）
  - ※2023年4月に再編
  - スポーツ・インテグリティ・ユニットを設置（2014年4月1日）
  - ハイパフォーマンスセンターを設置（2016年4月1日）
  - ※2019年5月にハイパフォーマンススポーツセンターに名称変更
  - 災害共済給付に関する事務が文部科学省からこども家庭庁に移管（2023年4月1日）
  - ※2023年4月に学校安全部を災害共済給付事業部に名称変更

スポーツ施設の運営及びスポーツの振興に関する業務

各種スポーツの国際大会やイベント等を開催するスポーツ施設の管理・運営を行っています。
また、登山に関する指導者等の養成及び情報提供業務を行う「国立登山研修所」、
そしてスポーツ文化の歴史と伝統を伝える「秩父宮記念スポーツ博物館・図書館」の管理運営業務を行っています。

スポーツ施設

「国立代々木競技場」・「秩父宮ラグビー場」・「味の素フィールド西が丘」の管理・運営を行っています。

国立代々木競技場（第一体育館・第二体育館）

国指定重要文化財（2021年）

1964年東京オリンピックのために建設されました。第一体育館は2本の主塔とケーブルによる吊り屋根が特徴的なダイナミックな体育館、第二体育館は1本の主塔から屋根が螺旋状に広がる吊り構造と円錐形の天井が印象的なすり鉢状の体育館で、その造形の美しさは国際的に高い評価を得ています。現在、各種スポーツ及び文化的行事に使用されています。第一体育館は、2021年の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の会場としても利用されました。

YOYOGI NATIONAL STADIUM

施設概要

■ **第一体育館**
延べ面積／28,705㎡　アリーナ面積／4,000㎡　収容人員／12,934名（最大）
※1964年東京オリンピック当時は、50m×8コースの競泳用プールと飛込用プールがありました。

■ **第二体育館**
延べ面積／5,644㎡　アリーナ面積／1,300㎡
収容人員／4,002名（最大）


国立代々木競技場（第一体育館・第二体育館）を上空から


第一体育館


第二体育館

国立代々木競技場Webサイト　https://www.jpnsport.go.jp/yoyogi/

秩父宮ラグビー場

ラグビー専用競技場として1947年に「東京ラグビー場」として完成。後に「秩父宮ラグビー場」と名を改め、1962年10月1日、国立競技場に移管されました。1964年の第18回オリンピック東京大会ではサッカー競技会場として利用され、現在はラグビーの国際試合、リーグワンや関東大学ラグビーなどに利用されています。

施設概要
芝生面積／10,515.5㎡
（夏芝：ティフトン、冬芝：ペレニアルライグラスで通年緑化を実施）
敷地面積／35,459㎡　建築面積／11,741㎡　収容人員／24,871名


秩父宮ラグビー場

味の素フィールド西が丘

1972年、国立西が丘競技場は、サッカー専用競技場として建設されました。国際試合、天皇杯予選、全日本大学選手権、関東大学リーグ、全日本女子選手権、全国高校選手権などに幅広く利用されています。2012年に、ネーミングライツを導入し、施設名が「味の素フィールド西が丘」となっています。

施設概要
芝生面積／10,614㎡（サッカーコート 105m × 68m）
（夏芝：ティフトン、冬芝：ペレニアルライグラスで通年緑化を実施）
延べ面積／997.17㎡　建築面積／1,186.65㎡　収容人員／7,258名


味の素フィールド西が丘

国立登山研修所

登山指導者等養成のための専門施設

我が国の登山の健全な発展を図るため、1967年に文部省登山研修所として開所され（2009年に文部科学省から移管）、以来、登山指導者養成のための研修事業や、登山に関する情報提供を行い、登山事故の防止に貢献しています。

本館	標高／480m　敷地面積／26,114㎡　建物面積／1,658㎡ 附属施設／トレーニング室、宿泊室、講義室、乾燥室、パッキング室
スポーツクライミング用人工壁（屋内）	所在地／本館トレーニング室 ①高さ／6m～8m　幅／17m　FRP製　②高さ／6m　幅／3m　合板製
ボルダリングウォール（屋内）	所在地／本館トレーニング室 高さ／2.5m　幅／12m　合板製
ロッククライミング訓練施設（屋外）	所在地／研修所敷地内 高さ／17.5m　縦／11m　横／13m
夏山前進基地	標高／2,450m　敷地面積／725㎡
冬山前進基地	標高／1,310m　敷地面積／550㎡　※現在利用を中止しています。

（1）研修会・講習会・セミナーの開催
大学生、高等学校部活動指導者、消防、警察、自衛隊、山岳遭難救助組織、都道府県山岳連盟（協会）関係者・一般登山指導者等を対象とした、講義と実技を組み合わせた研修会・講習会や、一般登山者・登山初心者を対象としたオンサイト・オンラインのセミナー（座学講義）を開催しています。
（2）登山に関する最新の知見や技術等についての情報提供
（3）登山関係団体等の研修事業への施設提供、助言・協力


国立登山研修所本館


ロッククライミング訓練施設


登山リーダー夏山研修会

研修会のお申込等最新情報については、X及びInstagramをご参照ください。

国立登山研修所 X

国立登山研修所 Instagram

国立登山研修所Webサイト　https://www.jpnsport.go.jp/tozanken/

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館

スポーツの歴史や伝統を文化面から支える業務

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館は、日本で唯一の総合スポーツ博物館及び図書館です。昭和天皇の弟君であり、「スポーツの宮様」として親しまれた秩父宮雍仁（ちちぶのみや　やすひと）親王（1902－1953）の我が国のスポーツ界に対する功績を記念し、スポーツの振興に資するため、1959年に開設されました。以後、スポーツに関わる歴史・文化的情報を幅広く提供する活動を行っています。

現在、秩父宮記念スポーツ博物館は「新秩父宮ラグビー場（仮称）」への移転・開館に向けた準備を進めています。展示活動については、2022年1月から国立競技場内に「秩父宮記念ギャラリー」を開室し、雍仁親王の御遺品を中心とした収蔵品展や企画展を実施しています。その他外部では、他団体と連携した企画展も開催しています。また近年は、スポーツデジタルアーカイブを構築・公開し、資料のデジタル化を通じて、スポーツ資料のアーカイブ化・ネットワーク化を推進しています。


秩父宮記念ギャラリー


東京オリンピック（1964年）プログラム


企画展：1964-2020ユニフォームでみる東京大会（市川市）

スポーツ博物館Webサイト　https://www.jpnsport.go.jp/muse/

秩父宮ラグビー場の移転整備

現在の秩父宮ラグビー場は施設の老朽化が著しく、ユニバーサルデザインの導入や多様化するニーズへの対応も求められていることから、東京都の地区計画や指針に基づく「神宮外苑地区第一種市街地再開発事業」の枠組みにおいて移転整備することとしました。新ラグビー場の整備は、屋根を含む主要構造部分のⅠ期工事が2026年2月に着工しました。

新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業

新しい秩父宮ラグビー場の整備は、**「スポーツの力」で未来を育てるスタジアム**をビジョンに掲げ、以下の４つのコンセプトの実現を図ることを目的として進めています。

コンセプト	1 我が国のラグビーを象徴するスタジアム	2 様々なシーンに対応できる誰もが心地よいスタジアム	3 持続可能性に配慮した未来を紡ぐスタジアム	4 スポーツの多様な価値を発信するスタジアム

本事業の主な特色

PFI方式（BT＋コンセッション）

本事業の実施に当たっては、民間経営による収益性の向上によるJSCの財政負担の軽減を図る観点から、PFI方式（BT＋コンセッション）を導入しました。これにより、新秩父宮ラグビー場（仮称）は、民間事業者が施設の設計・建設を行った後、30年間の運営を行うこととなります。なお、BT＋コンセッションによる調達は、国の施設としては初めての事例となります。



全天候型（屋根付き）

全天候型とすることは、ラグビーをプレーする人、観る人、支える人、集まる人にとって快適な施設となるほか、他のスポーツ競技や各種イベントなど多様な用途での活用を図る観点からも有意義であると考えています。特に、利便性においては、①天候の影響を受けることなく使用できること、②音漏れを防ぎ、近隣への影響を軽減できること、③災害時の一時滞在施設となりうることなどのメリットがあります。

人工芝

フィールドは、ワールドラグビー推奨の人工芝とし、常に良好な状態で競技できる環境を整えます。また、人工芝を用いることにより、稼働率の向上はもとより、ラグビー以外の多様な用途での利活用も促進されることが期待されます。

スポーツの多様な価値の発信

スタジアム内に文化交流施設としてスポーツミュージアムを設置するなど、スポーツに関する深い学びを支援し、知的な刺激や楽しみを分かち合う機会を提供します。また、心身の健康の保持増進に加え、スポーツ・インテグリティや国際交流による相互理解の推進などスポーツを通して得られる多様な価値を広く国民に発信し、スタジアムに足を運ぶことで「スポーツの力」、スポーツの可能性を感じることができるスタジアムを目指します。

新秩父宮ラグビー場（仮称）施設概要		
座席数	階数	高さ
約15,000席	地上8階、地下1階	約46m



※イメージ図・記載内容は、実際の設計・施工段階で変更となる可能性があります。

「神宮外苑地区まちづくり」と「秩父宮ラグビー場の移転整備」の経緯



神宮外苑地区は、東京都が計画策定した四大スポーツクラスターの1つに位置づけられ、東京2020大会の招致・開催を契機に国立競技場の建替等が行われてきました。秩父宮ラグビー場を含む区域については、現在、東京都のまちづくり指針に基づき、スポーツ競技の継続性に配慮した連鎖的なスポーツ施設の整備計画が進められています（上図は再開発後の完成予想イメージ）。
この間、令和元年にはラグビーワールドカップ2019日本大会が開催され、国民からの大声援を受けて快進撃を続けた日本代表が初のベスト8進出を果たすなど、人々に大きな夢や感動を与えた大会となりました。
秩父宮ラグビー場は、老朽化とともに、ユニバーサルデザインの導入や多様化するニーズへの対応が求められるなか、スポーツ庁主催の「ラグビーの振興に関する関係者会議」において、ワールドラグビー基準の試合環境が用意できる、全天候型ラグビー専用スタジアムの建設に関する（公財）日本ラグビーフットボール協会の発言・要望などを踏まえ、「ラグビーをプレーする人、観る人、支える人、集まる人にとって快適な施設とすること」、「他のスポーツ競技や各種イベントなど様々な用途でも快適に使用できるように全天候型のラグビー場とし、BT＋コンセッション方式のPFI事業により整備すること」などとする「秩父宮ラグビー場移転整備の基本的考え方について」が示されました。JSCでは、この基本的考え方に沿って、新しい秩父宮ラグビー場を整備することとしました。

神宮外苑地区まちづくりと秩父宮ラグビー場移転整備に関する主な経緯	
平成23年12月	東京都が「2020年の東京」計画を策定 ・神宮外苑地区を四大スポーツクラスターの1つに位置付ける
平成25年6月	東京都が「東京都市計画神宮外苑地区地区計画」を決定
平成28年7月	東京都がJSCを含む権利者と「神宮外苑地区まちづくり基本計画の検討に関する合意書」を締結 ・再整備構想としてスポーツ施設を移転整備する案が示される
平成30年11月	東京都が「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」を策定
令和元年9～11月	ラグビーワールドカップ2019日本大会開催
令和3年1月	ラグビーの振興に関する関係者会議（第3回）において、「秩父宮ラグビー場移転整備の基本的考え方について」が示される
令和3年6月	JSCが「新秩父宮ラグビー場（仮称）基本計画」を策定
令和3年7月	JSCを含む関係権利者が「東京都市計画神宮外苑地区再開発等促進区を定める地区計画企画提案書」を提出
令和3年9月	JSCが「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」の実施方針を公表
令和4年1月	JSCが「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」の民間事業者を公募開始
令和4年3月	東京都が「東京都市計画神宮外苑地区地区計画」の変更を決定
令和4年11月	JSCが「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」契約締結
令和5年2月	東京都が「（仮称）神宮外苑地区第一種市街地再開発事業」を施行認可

神宮外苑地区まちづくりの取組

神宮外苑地区まちづくりでは、以下の課題解決に取り組んでいきます。

大規模スポーツ施設の老朽化

老朽化した日本を代表するスポーツ施設を競技開催の継続性に配慮しながら連鎖的に更新し、広くスポーツに親しめる世界に誇れるスポーツクラスターを形成

広場等のオープンスペースの不足

新たな100年に向けて、4列のいちょう並木等歴史ある景観を残しながら、外苑の魅力であるみどりやオープンスペースを増大

地区内の回遊性やイベント開催時の歩行空間の不足

歩行者ネットワークを強化し、イベント時も含め多様な来街者が安全に回遊して楽しめる、東京を代表する新たな複合型のまちづくりを推進



みどりを増やします。



安全・安心なスポーツ環境を形成します。



地域を守る防災拠点をめざします。

神宮外苑地区まちづくりプロジェクトサイト　https://www.jingugaienmachidukuri.jp/ ▶▶▶

国立競技場（MUFGスタジアム）



新しい国立競技場は2019年11月30日に完成し、これまでの国立競技場の歴史を継承しつつ、新時代のスポーツや文化の在り方を発信していけるスタジアムとして生まれ変わりました。2021年には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムとして使用され、2025年9月には東京2025世界陸上競技選手権大会の会場としても使用されました。現在は、陸上競技・サッカー・ラグビーなどのスポーツ競技大会や文化イベント等に幅広く利用されています。

特別目的会社による国立競技場の運営

国立競技場の運営管理については、民間経営により、JSCの財政支出の抑制を図るとともに、本競技場の利用拡大や質の高いサービス提供なども期待できるという観点から、2025年4月よりコンセッション（公共施設等運営権）方式を導入しています。特別目的会社（株式会社ジャパンナショナルスタジアム・エンターテイメント）は3つの事業ビジョンに基づき運営を行っています。

CHANGE 1
グローバル型のビジネスモデル導入による経営革新（多様なイベントの開催、VIPルームの増設等大規模投資など）

CHANGE 2
国内スポーツ界の発展を牽引する、スポーツの聖地化（国内外の大規模大会の積極的な開催など）

CHANGE 3
ボーダレスなつながりと交流を生み出す、国民に愛されるスタジアム（スマートスタジアムの実現、様々なコンテンツを掛け合わせた総合エンターテイメントイベントの開催など）



世界トップレベルのナショナルスタジアムへ

スポーツ界を牽引する力に
各スポーツ団体と連携し、競技環境と収益還元を強化。スポーツ産業の更なる発展を目指すとともに、国内外の大会誘致でスポーツの中核拠点であり続けます。



顧客満足度を高める運営
飲食の店舗数やバリエーションの大幅見直しなど、観戦体験向上を目的とした各種サービスを拡充する事により利用者及び来場者の顧客満足度を高める取り組みを実施します。



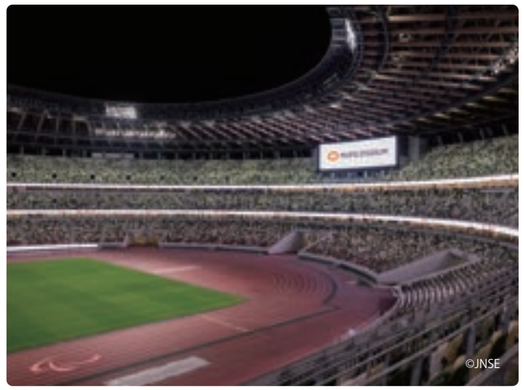
地域連携・にぎわい創出
地域に住み・働き・訪れる人々と緊密に連携し、地域全体の価値向上やにぎわい創出を推進し、スタジアムと地域がともに発展する事業のモデル化を目指します。



イベントの誘致・運営
スポーツイベントに加えて、「①国内外一流アーティストによるコンサート」、「②その他文化イベント」、「③参加型イベント・レジャー」の3つの柱を実現し、日々人々が集うスタジアムを目指します。



グローバル型ビジネスモデルの導入
VIP空間やICT設備を拡充する投資を行い、スマートスタジアムへ進化を遂げていきます。スポンサー企業とのシナジー創出や、ビジネスイノベーションハブの舞台としても活用することにより、高機能化・多目的化・高収益化のグローバル型のスタジアムビジネスモデルを導入します。



施設概要
所在地／東京都新宿区霞ヶ丘町10-1
敷地面積／約109,800㎡　建築面積／約69,600㎡　延べ面積／約192,000㎡
高さ／約47m　大きさ／南北方向約350m、東西約260m
階数／地上5階、地下2階　構造／鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造ほか
トラック／全天候型400m×9レーン
芝生／天然芝（地中温度制御システム、散水システム）

国立競技場（ＭＵＦＧスタジアム）公式サイト　**https://jns-e.com/** ▶▶▶

国際競技力向上のための研究・支援等に関する事項

JSCではハイパフォーマンススポーツを、世界一を競い合うスポーツと定義しています。ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）は、オリンピック競技とパラリンピック競技を一体的に捉え、国立スポーツ科学センター（JISS）と味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）が持つスポーツ医・科学研究、スポーツ医・科学、情報等のサポート及び高度な科学的トレーニング環境を提供し、各種スポーツ資源の開発等を行います。このような取組を通じ、ハイパフォーマンススポーツの強化に貢献しています。

HPSC JAPAN HIGH PERFORMANCE SPORT CENTER

施設の紹介

ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）では、次の施設の管理運営を行っています。
- スポーツ医・科学、情報等の研究、支援を行う国立スポーツ科学センター（JISS）
- トップレベルの競技者が同一拠点で集中的かつ継続的にトレーニングを行う味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）
- サッカー専用競技場である味の素フィールド西が丘・フットサルコート・テニス場・戸田艇庫

※NTC及び西が丘サッカー場はネーミングライツを導入し、施設名が「味の素ナショナルトレーニングセンター」「味の素フィールド西が丘」となっています。


国立スポーツ科学センター（JISS）


味の素NTC 屋内トレーニングセンター・ウエスト



味の素NTC 屋内トレーニングセンター・イースト


味の素NTC 陸上トレーニング場

実施事業の紹介

国際競技力向上のための研究と支援

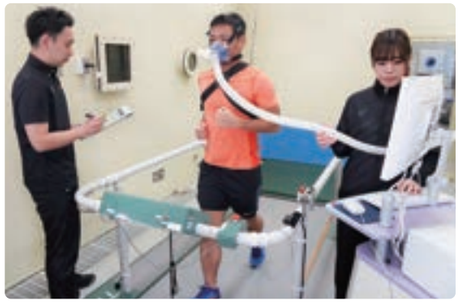
スポーツ医・科学支援事業
中央競技団体が行う我が国トップレベルの競技者及びチームの国際競技力向上に向けた活動に対し、スポーツ医・科学、情報等の各分野からサポートを行い、パフォーマンス向上に寄与しています。

スポーツ医・科学研究事業
スポーツ医・科学、情報等の各機能が統合したJISSの特長を生かし、国際競技力向上のために有用となる知見や方策を生み出すための調査・研究・開発を行っています。

スポーツ診療事業
トップレベル競技者のスポーツ外傷・障害・疾病に対し、競技スポーツに精通したスポーツドクターやアスレティックトレーナー等の専門スタッフが、メディカルチェック、診療及びリハビリテーションを通じて、競技者のコンディションを良好な状態に維持・回復させ、オリンピック・パラリンピックをはじめとする各種競技大会において競技力を最大限発揮できるよう支援しています。

女性アスリート研究・支援プロジェクト
女性アスリートが健康に競技を継続しパフォーマンスを発揮するために、専門スタッフが横断的に関わるスポーツ医・科学トータルサポートを行っています。

スポーツ庁受託事業
- ハイパフォーマンス・サポート事業
- 先端技術を活用したHPSC基盤強化事業

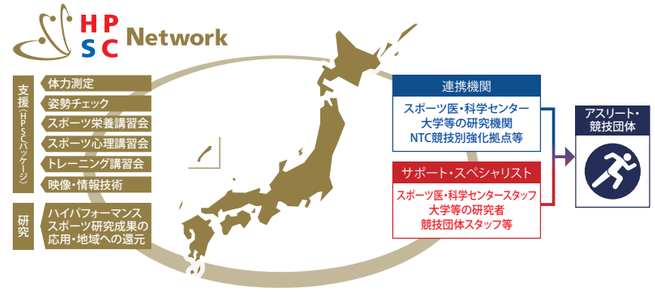

スポーツ医・科学支援事業：フィットネスチェック


スポーツ医・科学研究事業：風洞実験


スポーツ診療事業：診療

地域・大学等との連携・協働

HPSCネットワーク
「HPSCネットワークを通じた医・科学、情報サポートの展開」事業は、HPSCが行ってきたスポーツ医・科学、情報サポートの事例や知見をパッケージ化した「HPSCパッケージ」を全国に展開しています。地域におけるトップアスリートのサポート環境の整備とサポート・スペシャリストの養成を促進することで、質の高いサポートが全国各地でシームレスに実施されるような環境を構築することを目指しています。



大学・企業等との連携
大学・企業等との連携を通じて、HPSCの場を活用した研究の連携、実践機会の提供等を行うことにより、HPSCの機能強化を図るとともに、スポーツ医・科学、情報等による研究・支援を担う人材育成を推進しています。

連携協定締結大学等 16大学等（締結日順）（2026年4月現在）
国立大学法人 鹿屋体育大学 / 学校法人朴沢学園 仙台大学 / 学校法人 早稲田大学 / 国立大学法人 筑波大学 / 学校法人 日本体育大学 / 国立大学法人 大阪大学 / 国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学 / 学校法人浪商学園 大阪体育大学 / 国立大学法人 東京大学 / 学校法人 朝日大学 / 学校法人立命館 立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科 / 学校法人順天堂 順天堂大学 / 国立大学法人 北海道国立大学機構北見工業大学 / 北海道公立大学法人 札幌医科大学 / 国立大学法人 東京科学大学/ 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

JSCと大塚ホールディングス株式会社との共同プロジェクト「JSCハイパフォーマンススポーツセンターTotal Conditioning Research Project NEXT」の一環として「Total Conditioning Research Project 情報発信サイト」を新たに開設しました。



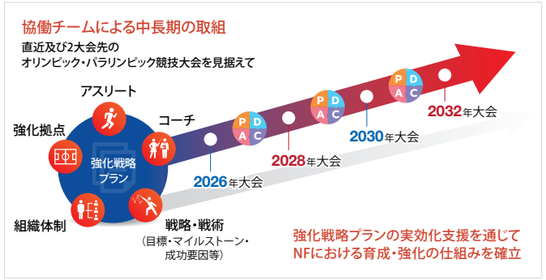
2026年1月に策定・公開した「トータルコンディショニングに関するポジションペーパー」のほか、ガイドライン(書籍)やハンドブック（小冊子）、講習会の開催情報等を発信していますので、ぜひご覧ください。

https://hpsc-totalconditioning.jpnsport.go.jp/

競技力向上事業（戦略的強化）

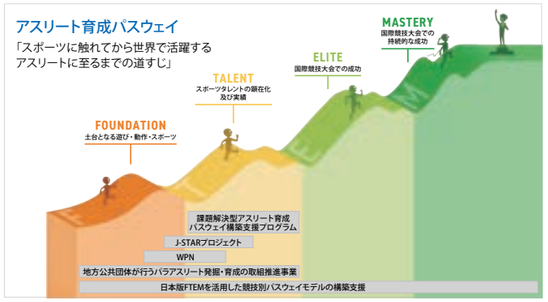
中央競技団体の中長期強化戦略実効化支援事業

中央競技団体が策定する「強化戦略プラン（直近及び2大会先のオリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた中長期計画）」の実効化を支援するために、日本オリンピック委員会（JOC）、日本パラスポーツ協会（JPSA）日本パラリンピック委員会（JPC）、JSCは、「協働チーム」として様々な活動に取り組んでいます。強化戦略プランの策定支援や実行上の課題解決につながる情報提供及びワークショップの開催、検証段階における会議の開催などを通じてPDCAサイクルの推進を支援し、各競技団体（NF）の育成・強化システムの確立と国際競技力の向上に貢献します。



アスリート育成パスウェイの構築支援

将来オリンピック・パラリンピック競技大会で活躍するアスリートの発掘・育成の仕組みづくりを支援しています。将来性の豊かな地域のタレント・アスリートからメダル獲得の潜在力を有するメダルポテンシャルアスリートまでの強固で持続可能なアスリート育成パスウェイの構築を目指し、地域タレント発掘・育成事業の関係団体等と連携した、ワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク（WPN）を運営している他、全国規模のタレント発掘プロジェクト「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト（J-STAR）」やNFと連携した事業等を展開しています。



国際情報戦略事業

ハイパフォーマンススポーツに関わる国際情報を多角的に収集、分析、蓄積、提供し続け、それらの情報と国際ネットワークを用いて、HPSCの機能強化、持続可能な国際競技力の向上、及びスポーツによる地域・国際社会の発展等に寄与します。

情報調査

ハイパフォーマンススポーツに関わる国際情報を多角的に収集・調査、分析、蓄積し、国内外の関係団体等に提供します。これらの情報は、国内外のスポーツ及び社会の情勢や動向等を適切に踏まえて、日本のハイパフォーマンススポーツ政策・施策を推進するために活用されています。

国際ネットワークのマネジメント

国際ネットワークの戦略的な構築、維持、強化、活用を通して、情報収集・調査活動及び効果的な情報発信を推進するとともに、国際渉外を担い具体的な連携事業につなげています。

能力開発

国際ネットワークと情報を活用し、能力開発のための仕組み、プログラム、コンテンツ等を企画・開発・提供します。これにより、国内外においてハイパフォーマンススポーツの次世代を担う人材の育成を支援します。



JSCと国際NGOであるsportanddevが共同開発した
スポーツを通じたSDGsマネジメント手法に関するガイドブック



日本語版：
https://www.iir.jpnsport.go.jp/jp/sdgs/

英語版：
https://www.iir.jpnsport.go.jp/en/sdgs/

スペイン語版：
https://www.iir.jpnsport.go.jp/esp/sdgs/

HPSC Webサイト | **https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/** ▶▶▶

関係機関との連携・協働

地方公共団体との連携・協働：JAPAN SPORT NETWORKの構築

JSCは、スポーツの推進を担う唯一の独立行政法人として、スポーツ関係者のさらなる連携・協働の中心的な役割を果たすため、平成25（2013）年にJAPAN SPORT NETWORK（以下、「JSN」という）を創設しました。
令和8（2026）年5月末現在、都道府県、政令都市、特別区、大都市から町村まで規模の異なる自治体（915団体）がJSNに参加しています。創設以来、参加団体数が増加し、スポーツ政策に関する最大規模の地域連携ネットワークに拡大しています。

「スポーツの力」共同宣言

スポーツ基本法は、スポーツを「世界共通の人類の文化である」とし、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは「すべての人々の権利」であると謳っています。日本スポーツ振興センターと地方公共団体は、「スポーツの力」共同宣言を行い、スポーツ基本法の理念の実現を目指していきます。

スポーツ行政、地域スポーツの推進を支援

地域とスポーツを活性化する総合的なスポーツ政策プラットフォームとして、JSN参加団体を対象に情報サービス（メールニュースの配信、セミナー等の開催、調査研究）を提供しています。JSC各部署と連携し、政策立案、新規事業の企画、事業改善に資する情報（JSCが保有する研究知見、コンテンツ）や課題解決に資する有用な機会を提供していきます。



地域スポーツ政策イノベーションフォーラム（2019年・東京）

地方公共団体と JSC による連携・協働のシンボルマークコンセプトは『応援フラッグ』

デザインでは、マークの正円はプラットフォームである JSN を、その隣のラインは地方自治体ごとの旗に見立て、頭文字「J」を表しています。SPORT の「S」のラインも内在しています。

ロゴカラーの緑は「成長」、青は「信頼」。JSN から発信する情報の信頼性を青で、連携強化・協働が進むにつれて発展していく様子を緑で表し、全体の配色を通じて、スポーツの爽やかなイメージを表現しています。

右肩上がりに伸びる旗の重なりは、参加する地方自治体が増えることで JSN がより発展していく様子を、上に向かって徐々に濃くなるカラーは、連携強化・協働が進むにつれて収集・提供する情報や取組がより濃密に大きくなる様子を表現しています。

ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業


大会運営担当者に助言する日本の審判団（日ASEAN友好協力50周年記念
レガシー継承事業『第12回ASEAN Para Games（カンボジア）への審判団派遣』）

スポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）のもとで構築された官民協力体制や、これまでの取組を東京2020大会のレガシーとして継承し、今後、国内外で開催される様々な国際競技大会を念頭に、スポーツを通じた国際協力による日本のプレゼンス向上に資する取組を発展的に実施するとともに、日本の強みを活かしたスポーツによる国際協力事業を通じて、SDGsへの貢献を実現していきます。
JSCは、スポーツ庁・外務省をはじめとした団体により構成される「SFTコンソーシアム」のネットワークの発展に資する事務局業務を担うとともに、SFTコンソーシアム会員等が実施する事業を推進します。

- **事務局運営、SFTコンソーシアムのネットワーク発展**
- **優先協力分野やSDGs課題に主眼を置いた個別事業の展開**

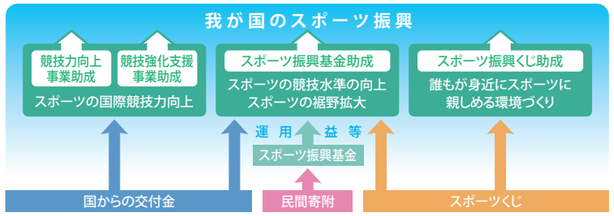
スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム 事務局
Tel：03-6804-2776　Mail：sft.info@jpnsport.go.jp
https://www.sport4tomorrow.jpnsport.go.jp/jp/

SPORT FOR TOMORROW

スポーツ振興のための助成業務及びスポーツくじの実施

スポーツくじ、スポーツ振興基金及び国からの交付金によるスポーツ団体等への助成

地域におけるスポーツ環境の整備・充実、未来のトップアスリートの発掘・育成、国際競技力の向上など、我が国のスポーツの普及・振興を図るため、スポーツ振興事業助成（スポーツ振興くじ助成、スポーツ振興基金助成、競技強化支援事業助成及び競技力向上事業助成）を行っています。

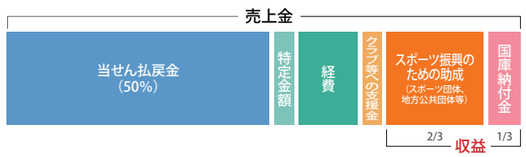




スポーツくじ

くじ助成の仕組み

スポーツくじは、我が国のスポーツ環境の整備・充実を図るため、新たな財源確保を目的として平成13年に導入されました。スポーツくじの売上金から、当せん払戻金、経費及び特定業務への繰入額（国際スポーツ競技会のためのスポーツ施設の整備等の経費に充当）を除いたものが収益となり、収益の2/3は、スポーツの振興を目的とする事業の資金として助成され、1/3は国庫に納付されます。



平成14年度から、誰もが身近にスポーツに親しめる環境づくりから、世界の第一線で活躍する選手の育成まで、地方公共団体及びスポーツ団体が行うスポーツの振興を目的とする事業に対して助成を行っています。これまでに39,087件、約3,104億円の助成を行いました。（令和8年度は配分額を合算。）

スポーツくじについて

スポーツくじは、サッカーの試合を対象に、複数試合の予想を行う「toto」「mini toto」「totoGOAL3, totoGOAL2」と、予想いらずでコンピュータがランダムに試合結果を選択する「BIG」「MEGA BIG」「100円BIG」「BIG1000」「mini BIG」、そして、サッカーとバスケットボールの試合を対象に1試合から予想できる「WINNER」があります。さらに、令和8年9月、バスケットボールの試合を対象とした予想不要の新たなくじDUNK（「DUNK10」「DUNK6」）が加わりました。

スポーツくじの令和7年度の売上は、約1,381億円。販売が始まった平成13年以降、スポーツくじを購入いただくことが我が国のスポーツの普及・振興への大きな支援となっています。

※19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。
※WINNERの売上の一部は、JリーグやB.LEAGUEの選手等のための環境整備やクラブ強化などに充当されます。

BIG
サッカー対象 予想いらずの 完全運任せ

toto
サッカーの 複数試合を 楽しく予想

WINNER
サッカー・バスケの 好きな1試合を 選んで予想

DUNK
新登場! 予想いらずの バスケくじ

スポーツ振興基金

基金助成の仕組み

スポーツ振興基金は、我が国のスポーツの国際競技力の向上とスポーツの裾野を拡大するため、平成2年に政府出資金を受けて設立されました。現在は、民間からの寄附金に基づく基金の運用益や国からの交付金等により、スポーツ団体、選手・指導者等が行う各種スポーツ活動に対して助成を行っています。

スポーツ振興基金への寄附について

現在、国立大学法人、地方公共団体及びスポーツ団体等の協力により設置した自動販売機の売上の一部を寄附していただいているほか、個人・企業等から寄附金の受付を行い、財源の確保に努めています。

楽天銀行口座
支店番号 211　口座番号 7005804
口座名称 独立行政法人日本スポーツ振興センター

PayPay銀行口座
支店番号 001　口座番号 0704490
口座名称 独立行政法人日本スポーツ振興センター

ゆうちょ銀行振替口座（郵便振替口座）
口座番号 00110-0-539813
口座名称 独立行政法人日本スポーツ振興センター スポーツ振興基金

スポーツ振興基金 独立行政法人日本スポーツ振興センター

国からの交付金による助成

国際競技力向上のための助成

平成15年度から、国内のトップリーグの活性化を目的とした活動等に対し、競技強化支援事業助成を行っています。また、平成27年度からは、オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会における日本代表選手のメダル獲得に向けて、国際競技力向上を図るため、競技団体等が行う日常的・継続的な選手強化活動を対象に、競技力向上事業助成を行っています。令和4年度からは、競技団体の組織基盤を確立・強化するための取組に対し、組織基盤強化支援事業助成を実施しています。

スポーツ振興くじ、スポーツ振興基金と助成事業Webサイト
https://www.jpnsport.go.jp/sinko/ ▶▶▶

スポーツくじオフィシャルサイト
https://www.toto-dream.com/ ▶▶▶

災害共済給付事業の実施

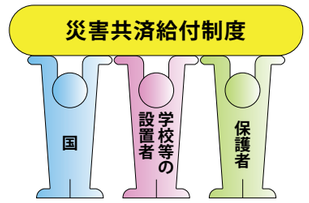
災害共済給付制度の運営及び事故防止のための情報提供

学校等の管理下における児童生徒等の災害に関する医療費等の給付及び学校等における事故防止のための情報提供を行っています。

災害共済給付制度の運営

災害共済給付制度とは、日本スポーツ振興センターと学校等の設置者との契約（災害共済給付契約）により、学校等の管理下における児童生徒等の災害（負傷、疾病、障害又は死亡）に対して災害共済給付（医療費、障害見舞金又は死亡見舞金の支給）を行うものです。教育課程に基づく授業中（保育中を含む）、部活動などの課外指導中、休憩時間中（始業前、放課後を含む）又は通学（園）中などの災害に対して災害共済給付を行っています。

令和7年度は全国の学校等で、児童生徒等総数の9割を超える1,525万人が加入し、年間約143万件の給付を行いました。



国・学校等の設置者・保護者の三者による互助共済制度

対象となる学校等

学校種別	義務教育諸学校、高等学校、高等専門学校、幼稚園、幼保連携型認定こども園、高等専修学校、保育所等

給付金額

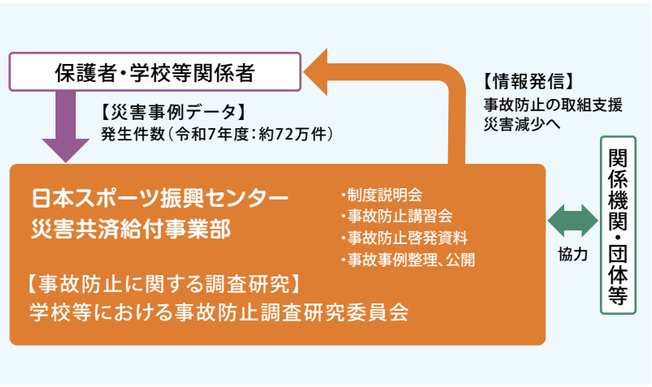
医療費	原則として医療保険並の「療養に要する費用の額」の4/10
障害見舞金	障害の程度により第1級4,000万円～第14級88万円（通学中の災害は半額）
死亡見舞金	3,000万円（運動性のない突然死、通学中の災害は半額）

令和7年度災害共済給付実績

	医療費	障害見舞金	死亡見舞金	計
件数（件）	1,434,024	340	42	1,434,406
金額（千円）	10,904,824	1,729,240	1,055,000	13,689,064

事故防止のための情報提供

災害共済給付の実施によって得られる事故情報を活用して、事例・統計データの整理、分析及び調査研究を行い、その成果を学校等関係者に分かりやすく提供することにより、学校等における事故防止の取組を支援します。



〈事故防止啓発資料イメージ〉



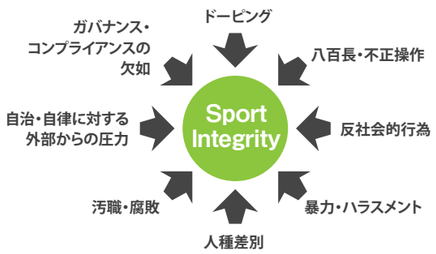
「災害共済給付Web」Webサイト　**https://www.jpnsport.go.jp/anzen/** ▶▶▶

スポーツ・インテグリティの確保に関する業務

「インテグリティ」とは、高潔さ・品位・完全な状態、を意味する言葉です。

スポーツにおける「インテグリティ」とは、スポーツが様々な脅威により欠けるところなく、価値ある高潔な状態を指します。これは、スポーツがその内在する価値と整合的に保たれ、社会の発展に貢献していくための基盤となるものです。JSCは、スポーツの価値を損なう様々な脅威に対処するとともに、関係機関と連携し、アスリートの権利が十分に尊重され、スポーツに関わるすべての人が安心して活動できる、公正・公平な環境づくりに貢献しています。

スポーツ・インテグリティを脅かす要因



【参考文献】 Council of Europe (2020). Guidelines on sport integrity.
Oxford Research A/S (2010). Examination of Threats to the Integrity of Sports.

スポーツにおけるガバナンス・コンプライアンスに関する業務

中央競技団体のガバナンス・コンプライアンス診断

中央競技団体のガバナンスおよびコンプライアンスの状況について、各団体の状況に応じた診断を行い、専門家による助言・フィードバックを通じて改善に向けた取組を支援しています。

スポーツ団体向け研修機会の提供

研修機会や動画コンテンツの開発・提供を通して、スポーツ団体におけるインテグリティ確保の取組を支援しています。

「スポーツガバナンスウェブサイト」の運用

スポーツ団体が自らの団体運営の状況について、簡便に自己説明・公表が行えるウェブサイトを運用しています。

スポーツガバナンスウェブサイト | **https://www.sg-web.jpnsport.go.jp**

スポーツ団体ガバナンス支援委員会の運営

中央競技団体においてガバナンスに起因する不祥事または不祥事に至るおそれのある事案が発生し、第三者の助言や関与が必要とされる場合に、弁護士や公認会計士等による支援を行います。

スポーツ指導における暴力行為等に関する第三者相談・調査制度に関する業務

トップアスリートのための相談窓口の運営

トップアスリートを対象に、競技活動における暴力やハラスメント等の相談に対応する窓口を運営するとともに、指導現場におけるハラスメントの予防に貢献するため研修を実施しています。

相談窓口サイト | **https://www.jpnsport.go.jp/corp/gyoumu/tabid/517/Default.aspx**

スポーツにおけるドーピング防止活動に関する業務

インテリジェンス活動

ドーピング検査だけでは把握しきれないアンチ・ドーピング規則違反の発見・特定に向け、ドーピング通報窓口の設置・運用などを通じ、情報の収集や関係機関との共有を行っています。

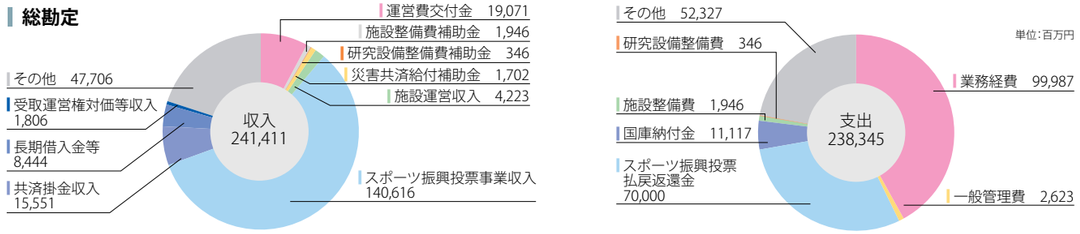
ドーピング通報窓口サイト | **https://www.report-doping.jpnsport.go.jp**

日本アンチ・ドーピング規律パネルの運営

アンチ・ドーピング規則違反についての事実の有無を認定し、措置を決定する役割を担う、日本アンチ・ドーピング規律パネルを所管しています。

予算 （令和8年度計画予算）

総勘定



※同一セグメント内で勘定間の繰入額があり、損益計算書科目の費用と収益が両建てされている場合には相殺している。

センターの経理は、複数の勘定に区分されており、それぞれの勘定ごとの令和8年度予算は、次のとおりです。

単位：百万円

投票勘定

収入	
区分	金額
スポーツ振興投票事業収入	140,616
スポーツ振興投票事業準備金戻入	23,192
利息収入	403
積立金取崩額	8,645
計	172,856

支出	
区分	金額
業務経費	62,062
うち、人件費	671
スポーツ振興投票業務運営費	38,199
スポーツ振興投票助成事業費	23,192
一般管理費	175
払戻返還金	70,000
国庫納付金	11,117
特定業務勘定へ繰入	7,000
スポーツ振興投票事業準備金繰入	22,235
計	172,589

災害共済給付勘定

収入	
区分	金額
災害共済給付補助金	1,702
共済掛金収入	15,328
免責特約勘定より受入	194
利息収入	214
計	17,437

支出	
区分	金額
給付金	13,648
災害共済給付業務経費	2,899
計	16,547

免責特約勘定

収入	
区分	金額
共済掛金収入	224
利息収入	25
計	248

支出	
区分	金額
災害共済給付勘定へ繰入	194
免責特約業務経費	29
計	223

特定業務勘定

収入	
区分	金額
投票勘定より受入	7,000
特定業務特別準備金戻入	5,500
長期借入金等	8,444
うち、長期借入金（勘定間融通分）	8,444
利息収入	112
計	21,056

支出	
区分	金額
業務経費	0
うち、新国立競技場整備事業費	0
国立代々木競技場耐震改修等工事費	0
ナショナルトレーニングセンター拡充整備用地取得等費	0
特定業務特別準備金繰入	7,000
事業外支出	13,979
うち、借入金等償還	13,829
支払利息	149
計	20,979

一般勘定

収入	
区分	金額
運営費交付金	19,071
施設整備費補助金	1,946
研究設備整備費補助金	346
基金運用収入	88
受取運営権対価等収入	1,806
国立競技場等運営収入	2,930
国立スポーツ科学センター運営収入	329
ナショナルトレーニングセンター運営収入	963
国立登山研修所運営収入	1
スポーツ及び健康教育普及事業収入	22
受託事業収入	2,112
寄附金収入	38
営業外収入	137
利息収入	43
その他収入	19
スポーツ施設保守・改修等積立金取崩額	157
計	30,008

支出	
区分	金額
業務経費	21,349
うち、人件費（事業系）	3,168
国立競技場等運営費	2,312
国立スポーツ科学センター運営費	2,011
ナショナルトレーニングセンター運営費	2,087
国立登山研修所運営費	56
スポーツ振興基金事業費	969
競技力向上事業費	10,250
組織基盤強化支援事業費	63
スポーツ活動環境公正化事業費	68
スポーツ及び健康教育普及事業費	365
受託事業費	2,112
一般管理費	2,448
うち、人件費（管理系）	916
物件費	1,532
施設整備費	1,946
研究設備整備費	346
予備費	1
計	28,202

※各欄積算と合計欄の数字は四捨五入の関係で一致しないことがある。
※一般勘定の「施設整備費補助金」、「研究設備整備費補助金」及び「寄附金収入」には前年度よりの繰越額のうち今年度使用見込額を含む。

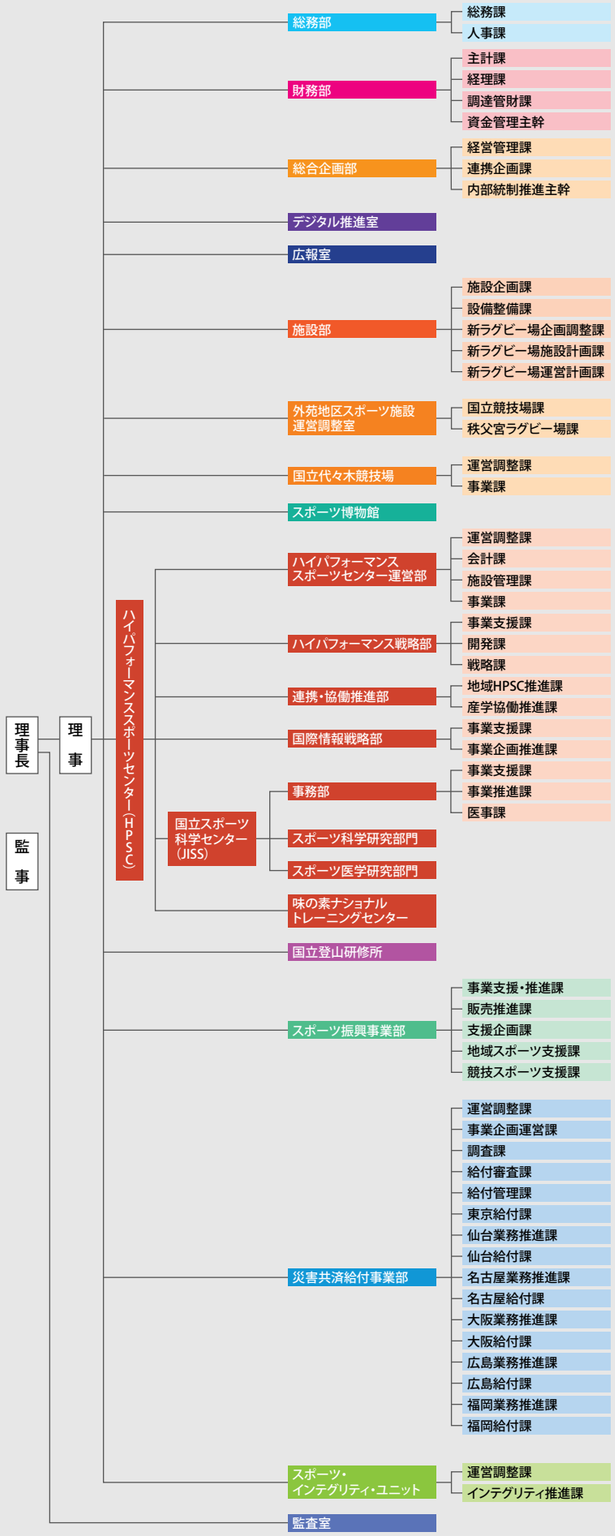
資本金の状況

単位：百万円

区分	令和7年度期首残高	令和7年度増加額	令和7年度減少額	令和8年度期首残高
政府出資金	257,355	-	-	257,355

機構図

独立行政法人日本スポーツ振興センター



※2026年4月1日現在

連絡先一覧

外苑事務所
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1
日本青年館・日本スポーツ振興センタービル
総務部総務課／Tel:03-5410-9124（代表）
財務部主計課／Tel:03-5410-9139
総合企画部経営管理課／Tel:03-5410-9123
広報室／Tel:03-5410-9121
施設部／Tel:03-5410-9152
スポーツ振興事業部事業支援・推進課／Tel:03-5410-9149
災害共済給付事業部運営調整課／Tel:03-5410-9158
スポーツ・インテグリティ・ユニット運営調整課／Tel:03-6804-3759

国立競技場
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1
Tel:03-5843-1300

国立代々木競技場
〒150-0041 東京都渋谷区神南2-1-1
Tel:03-3468-1171

秩父宮ラグビー場
〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35
Tel:03-3401-3881

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館
〒273-0017 千葉県船橋市西浦2丁目5-3（株）ロジ・レックス 船橋第一倉庫5階
Tel:047-401-1724

ハイパフォーマンススポーツセンター
国立スポーツ科学センター
味の素ナショナルトレーニングセンター
〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1他
Tel:03-5963-0200

味の素フィールド西が丘
〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1
Tel:03-5963-0203

戸田艇庫
〒335-0024 埼玉県戸田市戸田公園4-9
Tel:048-441-2580

国立登山研修所
〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峅寺ブナ坂6
Tel:076-482-1211

仙台支所
〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-5-15日本生命仙台勾当台南ビル8階
災害共済給付事業部仙台業務推進課／Tel:022-716-2106

名古屋支所
〒450-0001 愛知県名古屋市中村区那古野1-47-1名古屋国際センタービル16階
災害共済給付事業部名古屋業務推進課／Tel:052-533-7821

大阪支所
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-11-4大阪駅前第4ビル7階
災害共済給付事業部大阪業務推進課／Tel:06-6456-3601

広島支所
〒730-0011 広島県広島市中区基町9-32広島市水道局基町庁舎10階
災害共済給付事業部広島業務推進課／Tel:082-511-2822

福岡支所
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神4-8-15福岡ガーデンパレス4階
災害共済給付事業部福岡業務推進課／Tel:092-738-8720

SNS（各二次元バーコードからWebサイトへアクセスいただけます）

日本スポーツ振興センター Facebook
https://www.facebook.com/JapanSportCouncil/

日本スポーツ振興センター X
https://x.com/japansport_JSC

独立行政法人日本スポーツ振興センター公式チャンネル
https://www.youtube.com/@JAPANSPORTCOUNCIL

ハイパフォーマンススポーツセンター X
https://x.com/jissofficial

スポーツ・フォー・トゥモロー Facebook
https://www.facebook.com/sport4tomorrow/

スポーツくじ Facebook
https://www.facebook.com/sportsjapantotobig/

国立登山研修所 X
https://x.com/bunazaka6

国立登山研修所 Instagram
https://www.instagram.com/bunazaka6/



寄附について

独立行政法人日本スポーツ振興センターでは、皆様からの寄附を募集しています。我が国のスポーツや学校安全の更なる発展のために、皆様の温かいご支援をお願いいたします。

https://www.jpnsport.go.jp/corp/gaiyou/tabid/319/Default.aspx